

日本地球電気磁気学会会報 (第28号)

1967年5月30日

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目11

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 (812) 2111 内線 6476

振替 東京 4860

第41回総会並びに講演会後記

第41回日本地球電気磁気学会総会並びに講演会は、去る5月10日から4日間に亘り、東京都小平市の建設大学校で予定通り開催されました。爽やかな緑の木々の映える新築の校舎で原田大会委員長はじめ国土地理院の方々の誠に行き届いたお世話に快よく4日間を過ごさせて頂きました。

総計137もの一般講演のお申込があり2日間は2会場に分れて講演を行う事を余儀なくされましたが、多くの参会者が熱心に学界の最新の研究成果についての発表を聞き討議がなされました。

5月12日午後には特別講演が関連学会から

東大宇宙航空研 小田 稔氏が「X線天文学」について

名大理学部 島津康男氏が「地球の進化」について

夫々最近の研究成果を中心に興味ある御講演をして頂きました。本学会の特色である宇宙空間物理学と地球物理学とに夫々密接に関連する問題として学会の今後の発展の為にも大変有意義なお話であったと考え、この紙面をかりて両氏に御礼を申上げる次第です。

総会は5月12日午後3時半より、委員長の指名により上山運営委員が議長となり開がれました。先ず原田大会委員長の歓迎の辞に続き経過報告が庶務会誌、会計、学会連合等について夫々担当の運営委員からありました。

続いて関戸委員長より田中館賞が

第41号 小島 稔氏「残留磁気発生の機構及び絶対年代測定に基づく古地磁気学の研究」

第42号 櫻井邦朋氏「太陽宇宙線ならびに太陽電波の研究」

の2氏に授与された后、上記2論文について夫々審査経過の報告が委員長から行われました。

関戸委員長は次いで今回学会委員長に就任された招負と所見をのべられ前期委員会よりひきついた諸問題の解決、J. G. G. 特集号の発行等によって飛躍的に増加した繰越金の有効な使途等今后運営委員会で解決してゆく事を明らかにされた。又国内の研究体制の確立についても学会の意見が反映する様努力を続ける事を表明された。

3月で任期を終えられた加藤前委員長は前期の運営委員会で行なわれた諸活動特に長谷川記念杯の設定、学会での特別講演を始めた事等について報告され、今後の学会の発展を希望する旨挨拶された。

又永田評議員は委員長の依頼により国際的な学会の情報について説明され本年9月にスイスでI. U. G. G. I. A. G. A. の総会が開催される事、本年春のICSU総会でIUCSTP (Inter-Union Committee on Solar Terrestrial Physics) の設置が正式に認められた事等が報告された。

次に議事に入り先ず昭和41年度決算並びに昭和42年度予算案が提案され新旧会計担当運営委員より夫々説明があり討論の後承認されました。

規約改正案の第1として運営委員会より第19条(総会の定員数)について改正案が出され賛成125票、反対3票、棄権89票で原案通り可決されました。

規約改正案の第2として会員有志38名より提案された学生会員を廃止する案(但し会費について特例を認める)について審議した結果賛成119票、反対17票、棄権39票で出席会員の3分の2以上の賛成を得て可決されました。(改正された条文は別項の通りです)

最後に立たれた長谷川名誉委員長は先ず昨年10月31日死去された田中節美稲女史に対し哀悼の意を表された後本会の発展に対し祝辞を述べられました。

恒例の懇親会は折柄建設大学で開かれていた測地学会と本会との合同で行なわれ従来から望まれていた関連学会との親睦が実現致しました。国土地理院の皆様のお御尽力により生ビール、カクテルと盛沢山な御馳走に夜おそくまで楽しく過す事が出来ました。

以上の様な経過で4日間の大会を大変円滑に充実して終了する事が出来ました事は、一重に大会をお世話下さった原田大会委員長始め国土地理院の皆様方の並々ならぬ御努力の賜物でありこの紙面をかりて厚く御礼申上げる次第であります。

学会規約の改正について

第41回総会で改正された本学会規約の条項は次の通りです。

第5条 会員の種別は、正会員、名誉会員、および賛助会員とする。

第6条 正会員は地球電気磁気学に関する高等の学術を修め、またはそれらの技術に熟達して本会の目的に賛同する個人。名誉会員は地球電気磁気学に関し功績顕著な者、又は本会の目的達成に寄与したもので総会の決議をへて推薦された個人。また賛助会員は本会の事業を援助する個人又は団体とする。

第7条 会員は次の会費を納付しなければならない。

- 一、正会員は年額 1500 円 但し正会員中学生の身分にあるもので所定の手続きを経たものは年額 800 円とする。
- 二、名誉会員は会費を納める事を要しない。
- 三、賛助会員は年額一口 5000 円以上。

第19条 総会は国内に在住する正会員の3分の1以上出席しなければ成立しない。ただし、書面によって意志表示した会員と、その出席会員に表決を委任した会員は出席会員とみなす。

第24条 本会の正会員になろうとするものは正会員2名の紹介を得て、委員長に入会申込書を提出し、運営委員会の承認を受けなければならない。

学会会員名簿の刊行について

運営委員会では近く当学会会員の名簿を英文、和文両方で印刷配布する予定であります。つきましては前回(昭和40年2月現在)の名簿以降に所属を変更された方で本会事務所に未だ御通知して頂いてない方は6月30日迄に洩れなく本会事務所宛お知らせ下さい。

学会会費納入について

本学会会費は学会内規第4条により「原則として各年度の第1四半期(4月-6月)に全額納入すべきものとする」となっております。本年度会費を未納の方にはこの会報に添えて振替用紙を同封致しますので折返し納入して頂く様お願い申し上げます。なお2年以上会費を滞納された会員は内規により

退会して頂かねばならなくなる事もありますのでお含みおき下さい。

会誌配布について

この会報と前後してJ.G.G. Vol.19, No.1がお手元に届く事となります。今号より会誌刊行を担当している京都大学の運営委員の方々から直接郵送する方法をとります。従って会誌の配布について問題がありました場合には本会事務所経由か又は直接京都大学工学部 加藤進、木村磐根両運営委員宛お知らせ下さい。

新入会員紹介および会員異動報告

会報第26号以降41回総会までに下記の方々があらたに本学会に入会されました。

氏名 (敬称略)	所 属	氏名 (敬称略)	所 属
南 部 充 宏	東 大 理	三 浦 輝 夫	東 大 理
上 出 洋 介	〃	鈴 木 勝 久	〃
川喜多 光 子	〃	藤 高 和 信	〃
江 尻 全 機	東大宇航研	松 本 紘 紘	京 大 工
早 川 正 士	名 大 工	小 川 忠 彦	〃
深 尾 昌 一 郎	京 大 工	来 山 征 士	〃
昌 理 宣 夫	東 北 大 理	麻 生 武 彦	〃
荻 原 幸 男	東 大 震 研	井 上 隆 義	京 大 理

会 計 報 告

昭和41年度決算報告

収 入 の 部

前年度繰越金	134,900	円
正会員学生会員会費	448,620	
准会員会費	1,454,668	
賛助会員会費	10,000	
文部省助成金	180,000	
預金利子	34,112	
予稿集売上	85,000	
別刷代金	529,840	
別刷交換会費	18,500	
その他	1,624,000	
計	4,519,640	

支 出 の 部

第39回総会費	88,800	円
第40回総会費	75,930	
会誌J. G. G 18-1	389,240	
" 18-2	982,145	
" 18-3	305,100	
" 18-4	310,260	
雑印刷費	50,455	
通信振替代	219,205	
消耗品費	64,490	
会合費	10,210	
地球物理学会連合費	1,000	
その他査読料など	31,000	
次年度繰越金	1,991,805	
計	4,519,640	

昭和42年度予算

収 入 の 部

前年度繰越金	1,991,805	円
正会員会費	320,000	
准会員会費	1,100,000	
賛助会員会費	250,000	
文部省助成金	180,000	
預金利子	30,000	
予稿集売上	80,000	
別刷代金	550,000	
別刷交換会費	20,000	
計	4,521,805	

支 出 の 部

第41回総会費	130,000	円
第42回総会費	130,000	
会誌J. G. G 19-1	350,000	
" 19-2	450,000	
" 19-3	400,000	
" 19-4	400,000	
雑印刷費	120,000	
通信振替代	300,000	
消耗品費	70,000	
会合費	20,000	
地球物理学会連合費	1,000	
謝金	250,000	
繰越金	1,900,805	
計	4,521,805	

日本学術会議地球物理研究連絡委員会の 地球電磁気分科会の経過について

去る5月11日に上記分科会が、建設大学校において、行われました。その議事の概要を簡単にお知らせします。詳細については、議事録が、庶務のところにありますので、お問合せ下さい。

- a. IAGG総会への *National delegate* の件
- b. IAGG総会に提出する *National report* 執筆者選任の件
- c. IAGG総会に関連するシンポジウム (*Birkeland* 及び *Conjugate point*) について、
- d. 明年5月第4回国際大気電気会議が日本で開催され、日本学術会議後援となる。
- e. 外圍大気研究センター (仮称) への支持を地物研連委に要望する書類を、当分科会を通して提出することとなった。
- f. WMS報告が出版された旨の報告。
- g. 日本地球電磁気学会よりの下記の申入れについて、
 - (1) 分科会議事録を庶務委員に送付されたい。
 - (2) IUGG総会国費派遣者について、学会の意向を反映されたい。以上の二件について、できるだけ希望に添うよう扱うことになった。

講演会方式に関するアンケートについて

日本地球電磁気学会は年々隆盛の一途をたどり、今回の第41回総会並びに講演会においては、発表論文数120編、所要時間30時間に及び、これと特別講演(2題)と総会の時間4時間を加えると、全日間の会期も不足の感じが致しました。

然し、会期も現在の程度が限度と考えられ、尚今後の論文数の増加を考慮に入れると、講演会方式の検討を行う段階に現在来ているのではないかという声も聞かれます。

総会の席上でもお願い致しましたように、運営委員会と致しましては、全会員の皆様にお願ひし、検討のための資料として、講演会方式に関する皆様御意見をお聞かせ頂きたく、下記のアンケートに御協力お願い致します。用紙は会報と一緒に送りいたします。

期日は 6月30日まで

運営委員会

41年度第7回東洋レーヨン奨励金について

本会より推薦された小島稔会員が 8,494,000 円の奨励金を受領されました。これはK-A, Rb-Sr, U-Pb アイソトープによる日本列島の成因及び発展史の研究のために、固体ソース、質量分析計および2-チャンネル蛍光光度計の製作にあてられるそうです。

研究会のお知らせ

テーマ 「静穏時の電離層圏におけるエネルギー収支

—— 原子分子過程を中心として ——

場所
方針

東大宇宙航空研 期日 本年11月頃(2日間の予定)
限られた時間内で出来るだけ深く問題点を掘り下げることが出来るようにするために、出席者はある程度の予備知識をもって集まって頂きたいと思えます。

そのため出来るだけ早く参加予定者名簿を作りその人達には予め討論して頂きたい話題や、文献リストなどをお送りしておきたいと考えています。

申込方法 この種の会に関心のある方は至急(なるべく6月20日頃までに)

下記宛お知らせ下さい。

地方からの参加者若干名には旅費の補助が可能と思えますので、御希望があればそれも一緒にお知らせ下さい。

東京都目黒区駒場町 856

東京大学宇宙航空研究所

高柳和夫

第4回国際大気電気会議について

第4回国際大気電気会議 (The 4-th International Conference on the Universal Aspects of Atmospheric Electricity) 国内組織委員長、田村雄一教授より本会委員長宛に開催計画についての報告がありました。その概要を記します。なお詳細については全国内組織事務局へおたずね下さい。

開催日程 (予定) ... 1968年5月12日～15日

開催地 (予定) 東京 ホテルオークラ

主催者および後援団体 Joint Committee IAGA-IAMAP on Atmospheric Electricity, 日本学術会議, 日本気象学会, 日本地球電気磁気学会

Conference Chairman; S.C. Coroniti

" Vice Chairman; 田村雄一